

台風10号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策 R 6 - 5
令和6年8月23日
農林総合研究センター

I 被害防止対策

※詳しい台風情報は最終ページ

台風10号は、日本の南をゆっくりとした速さで北北西へ進んでおり、来週27日頃には強い勢力で上陸するおそれがあります。台風接近前から、大雨や暴風に警戒が必要です。最新の台風情報に注意し、万全の対策を講じて下さい。

<要旨>

- 1 大雨に備え、再度、排水路を点検・連結するなど、排水対策を徹底する。
- 2 水稲の収穫期となっているほ場では、できるだけ刈取作業を進める。収穫期前のほ場では、フェーンによる稲体の消耗を防ぐため、事前に入水する。
- 3 収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- 4 野菜や花き等の園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、事前にサイドのビニールを張り、破損箇所は速やかに補修し、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備する。
- 5 棚栽培の果樹では、風圧による棚の上下動によって落果が起きるので、事前に支柱・アンカー等で棚面を固定する。

<各農作物等の対策>

1 水稲

現在、早生は収穫期、中生は登熟中期～後期、晩生は登熟中期となっている。

① 事前対策

- ・収穫期となっているほ場では、できるだけ刈取作業を進める。
- ・収穫期前のほ場では、あらかじめ入水し台風通過中は湛水状態にすることで、稲体の消耗を防ぎ、被害の軽減に努める。

② 事後対策

ア 収穫期となっているほ場

- ・順次、早目の収穫作業を進める。
- ・倒伏した場合、登熟不良や穂発芽の発生が懸念されるため、ほ場の排水を徹底する。

- ・胴割粒や着色粒の発生を抑えるため、刈取適期を見極め、順次収穫作業を進めるとともに、ほ場周囲などで靱ずれの被害を受けた部分は可能な限り分別して収穫調製を行なう。

イ 収穫期前のほ場

- ・降雨の状況に応じてほ場への入排水を行なう。その後も引き続き間断通水を継続し、飽水状態を保つ。
- ・異常高温（最高気温32℃以上、平均気温27℃以上）の場合は、毎日通水するなど間断通水の間隔を短くする。また、可能であれば夜間通水を行うなどきめ細かな水管理を実施する。

2 大豆

現在、子実肥大期となっており、強風や豪雨による茎葉及び莢の損傷、根の活力低下に注意が必要な時期である。

① 事前対策

- ・あらかじめ畦間通水を実施し、落花、落莢を防ぐ。
- ・降雨が予想される場合は排水路を点検・連結しておく。

② 事後対策

- ・大雨を伴った場合は、台風通過後速やかにほ場を点検し、排水に努める。
- ・降雨がない場合は、8月末まで7～10日おきに畦間通水を継続する。
- ・莢擦れにより汚損粒の発生が懸念される場合は、殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

① 事前対策

ア 施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、はぼたん等）

- ・大雨に備え、ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内への浸水を防ぐ。
- ・施設内が高温になると葉や生長点、花芽、果実等の障害が発生しやすいため、事前に十分なかん水を行っておくとともに、高温時は頭上から散水して作物とハウス内の温度を下げる。
- ・施設内に風雨が吹き込まないようにハウスサイドは閉める。ハウスビニールのバタつきを防ぐためにバンドを締め直し、破損箇所は補修する。
- ・換気扇が設置されている場合は、暴風時に施設を密閉し、換気扇を稼働させて、施設の内圧を下げて、フィルムの浮き上がりを防止する。

イ 露地野菜・花き（だいこん、かんしょ、ねぎ、ブロッコリー、かぼちゃ、きく、はぼたん等）

- ・大雨に備え、ほ場の排水溝を整備する。
- ・なすや豆類などの棚仕立ての品目では強風に備え、筋かいや直管で棚を相互に連結し、杭で棚を固定する。

- ・砂丘地のだいこん、にんじん、かんしょ等では、飛砂防止のために防風ネットの設置や寒冷紗等のべたがけをする。降雨がない場合は、スプリンクラー散水を強風の前から台風が通過するまで行う。
- ・なすやきゅうりなどの果菜類では、収穫可能なものは早急に収穫する。
- ・ねぎはパイプ支柱を1.8 m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束して横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。
- ・きくやはぼたんなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5 m毎に打ち込み、ネットを補強する。

② 事後対策

- ア 施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、はぼたん等）
- ・施設内に浸水した場合は、畝間や通路に停滞水がないように速やかに排水する。
水の流入による肥料の流亡や根傷みなどが発生しやすいため、被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布などにより草勢の回復に努める。
 - ・ハウスのビニールの飛散・破損は速やかに修理する。
 - ・施設内の作物で萎れが発生した場合は、頭上から散水するか動力噴霧器で噴霧散水する。
- イ 露地野菜・花き（だいこん、かんしょ、ねぎ、ブロッコリー、かぼちゃ、きく、はぼたん等）
- ・ほ場内の停滞水は根腐れによる草勢の衰えや病害の発生につながるため、速やかな排水に努める。
 - ・冠水・浸水したほ場では、疫病等の被害が発生しやすくなるため、早急に防除を実施する。また、茎葉が泥水等で汚染された場合は、洗い流すように防除する。
 - ・肥料が流亡している可能性があるため、液肥または速効性肥料を施し、生育の回復に努める。また、根の活力低下により、カルシウムや微量要素欠乏が懸念される場合は、それらの葉面散布を行う。

4 果樹

① 事前対策

- ア 栽培施設の点検、補強
- ・防風施設は、ネットの破れや固定が不十分なところがないか点検し、補修を行っておく。
 - ・果樹棚やハウス等の施設は、事前に点検し、支柱・アンカーの補強や棚線・ハウスバンドの締め直しを行う。
 - ・棚の上下動に伴う枝の損傷や落果を防ぐため、支柱・アンカー等で棚面をしっかりと固定する（図）。
 - ・リンゴのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等でつなぎ、揺れ止めの固定を行う。
 - ・ブドウの収穫が終了した園では、速やかにビニールを除去する。

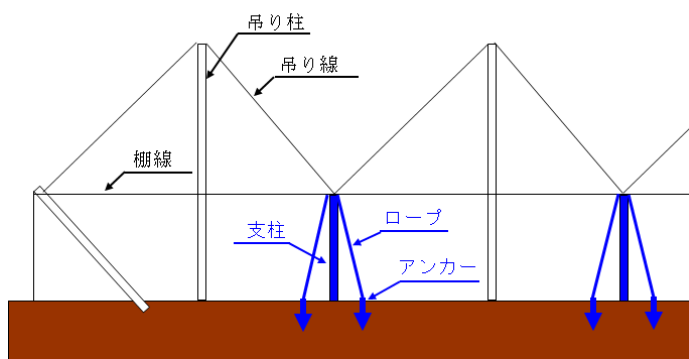


図 果樹棚の振れ止め補強例

イ 樹体管理

- ・収穫期に入っている樹種では、熟度を確認し、収穫可能な品質に達している果実を早急に収穫する。
- ・高接ぎなどの接ぎ木部分は、風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。
- ・リンゴのわい化栽培は、倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強する。
- ・フェーンによる高温が予想される場合は、事前にかん水しておく。

② 事後対策

ア 栽培施設

- ・果樹棚、ビニールハウス、防風施設等の破損箇所は、早急に補修する。

イ 樹体管理

- ・倒伏樹は速やかに起こし、三方から支柱を添え、再倒伏しないよう補強する。
- ・太枝が裂けた場合は、ボルト等で止めるか縄などでしばり傷口を接着させる。
- ・打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、廃棄するものに区別し、適正に処理する。
- ・葉や新梢が損傷した場合は、安全使用基準に基づき、速やかに殺菌剤を散布する。
- ・落葉や葉の損傷が大きい場合は、被害程度に応じて摘果を行い、樹体の回復を図る。
- ・台風通過後、地表面が乾燥している場合は、適宜かん水する。

5 畜産

① 事前対策

- ・畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等に破損箇所がある場合は速やかに補修する。
- ・暴風時は風向きを考慮し畜舎の開口部を最小にして、換気扇を稼働させて換気を行う。

- ・ 停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

② 事後対策

- ・ 畜舎の点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ・ 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。
- ・ フェーン現象により熱中症など家畜疾病の発生リスクが高まるため、送風機や細霧システムなどの暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。

6 飼料作物

① 事前対策

- ・ 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。
- ・ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。

② 事後対策

- ・ 倒伏したソルガムは、速やかに収穫し品質の低下を防ぐ。
- ・ 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので、収穫せずに登熟を進める。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先して、熟度に応じて収穫時期を決定する。
- ・ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所がある場合は、再度ラッピングする、テープを貼るなどサイロの気密性確保に努める。

II 気象の概況

台風の進路予想 (2024年8月23日6時)

